

男女共同参画社会の推進について

【調査の目的】

経済のグローバル化や少子高齢化、人口減少など、私たちを取り巻く環境が急速に変化していく中、誰もが、社会のあらゆる分野で自分に合った生き方を選択し、個人として持つ能力を発揮することができるジェンダー平等・男女共同参画社会の実現は、大変重要です。

福岡県では、「第5次福岡県男女共同参画計画」（計画期間：令和3年度～令和7年度）を策定し、「男女がともに個性と能力を発揮できる豊かで活力ある社会」等を目指し、様々な施策・事業を推進しているところです。また、DV（ドメスティック・バイオレンス）をはじめとする女性に対する暴力は依然として深刻であり、社会的・経済的に厳しい状況にある女性への支援も、ジェンダー平等・男女共同参画社会を実現していく上で重視すべき課題です。

また、令和3年6月には「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が改正され、男女を問わず立候補や議員活動をしやすい環境整備等を行うため、啓発活動や性的な言動等に起因する問題への対応等さらなる取組が求められています。

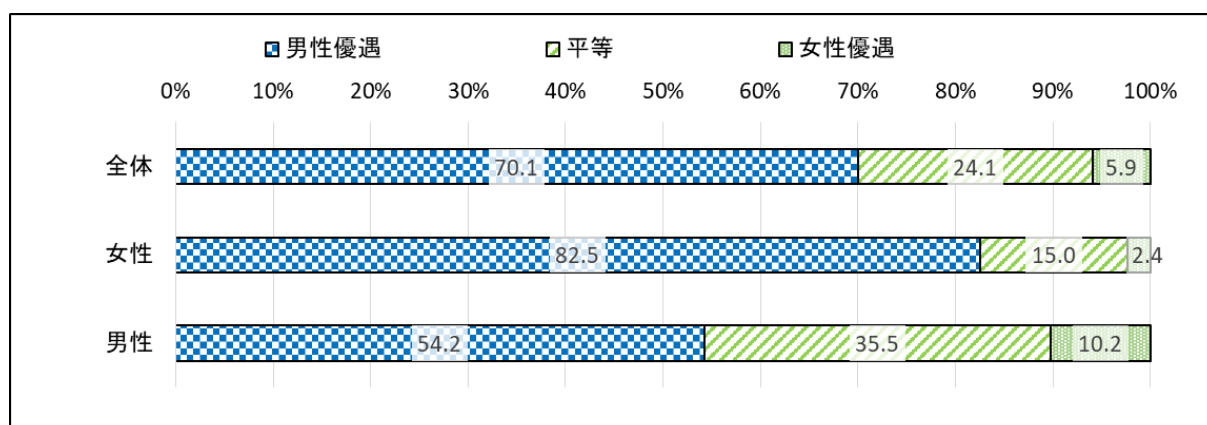
こうしたことから、今後のジェンダー平等・男女共同参画を推進する施策を検討・企画する上での基礎資料とするため、県民の皆さんのジェンダー平等・男女共同参画に関する意識や実態を把握し、また、DVの被害者支援は、被害にあわれた方が早期に相談されることが肝要であることから、その相談窓口の周知度等を把握するため、調査を実施するものです。

(人づくり・県民生活部男女共同参画推進課)

問1 あなたは、普段の生活で男女の地位が平等だと感じますか。

【回答内容】

全体では、「男性優遇」と感じる人が70.1%、「平等」と感じる人が24.1%、「女性優遇」と感じる人が5.9%となっている。一方で、男性において「男性優遇」と感じる人は約5割程だが、女性においては約8割を占めるなど、女性のほうがより強く「男性優遇」と感じていることがわかる。

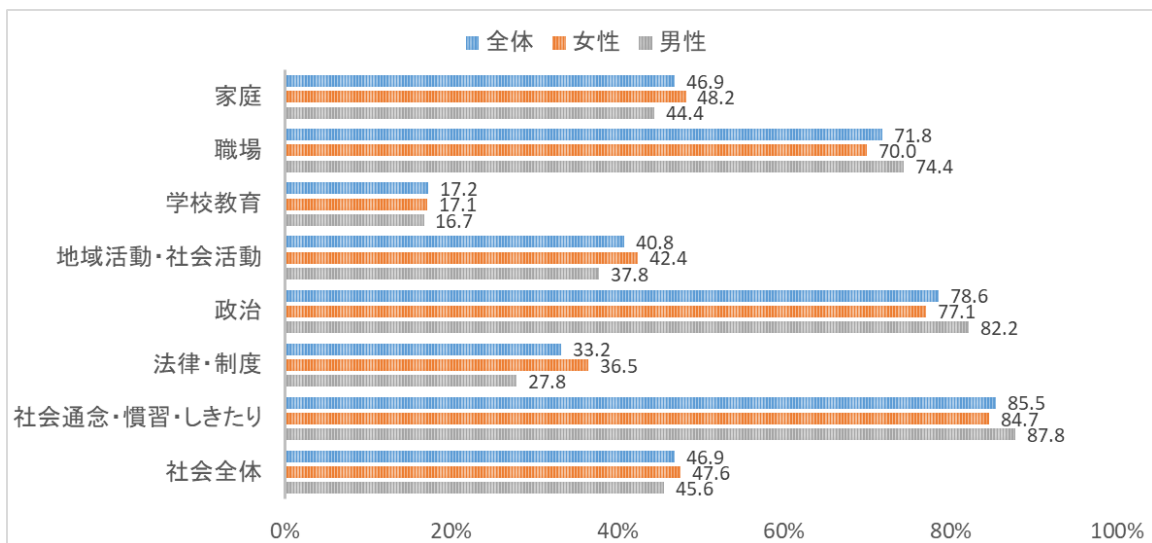


問1-2 (問1で「1. 男性優遇」または「3. 女性優遇」と答えた人にお尋ねします。)
あなたは普段どの場面で男性優遇または女性優遇と感じますか。

【回答】

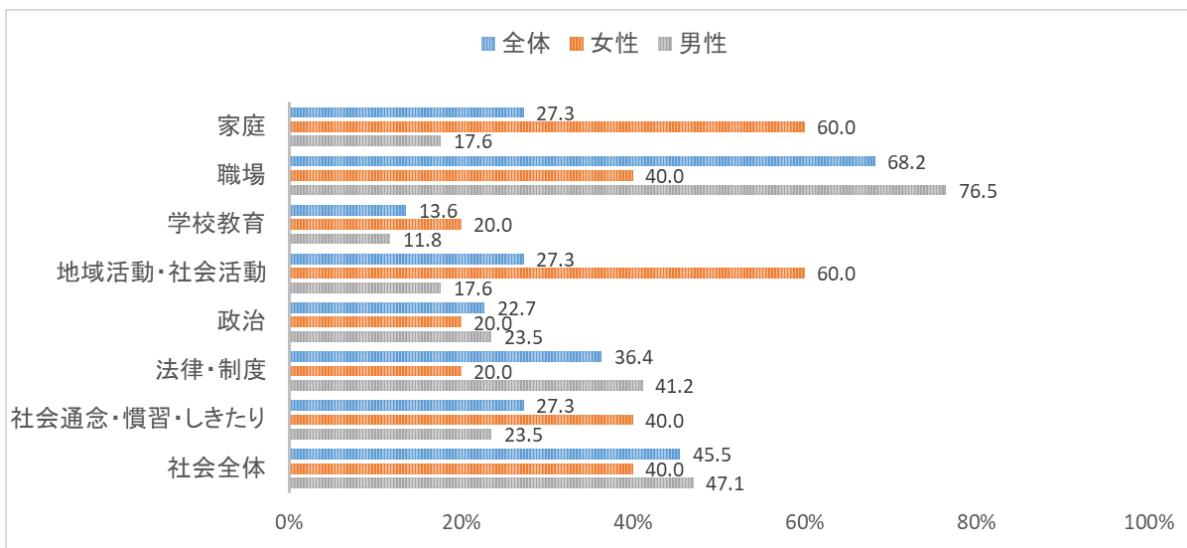
問1で「1. 男性優遇」と答えた人では順に、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治」、「職場」を挙げた人の割合が多く、「3. 女性優遇」と答えた人では、「職場」を挙げた人の割合が68.2%と突出していた。また、「1. 男性優遇」と答えた人では回答における男女差が少なかったのに対し、「3. 女性優遇」と答えた人では、「家庭」、「職場」、「地域活動・社会活動」において男女の回答に大きな差がみられた。

「1. 男性優遇」と答えた人



(回答者数：全体 262 人、女性 170 人、男性 90 人、その他 2 人)

「3. 女性優遇」と答えた人

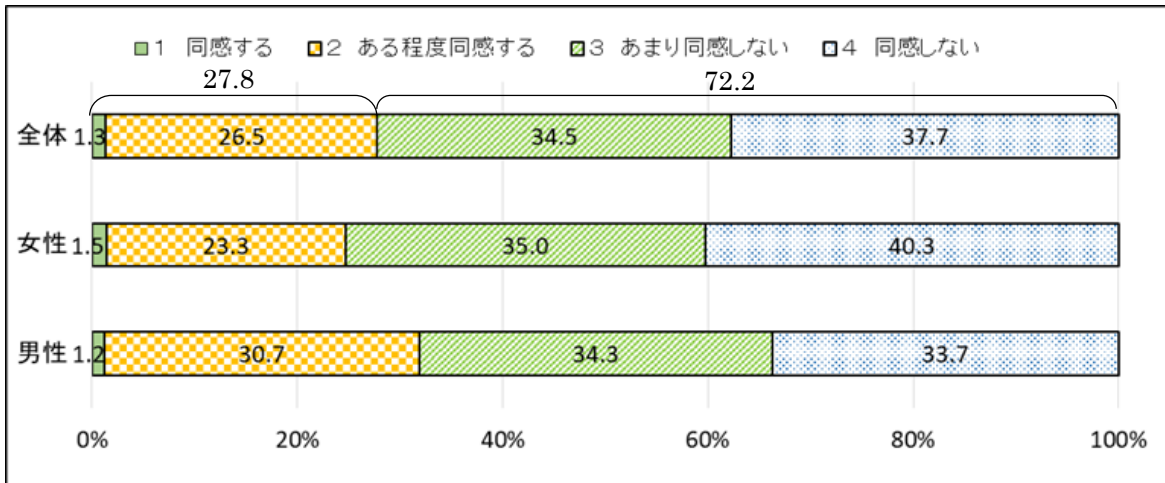


(回答者数：全体 22 人、女性 5 人、男性 17 人)

問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

【回答内容】

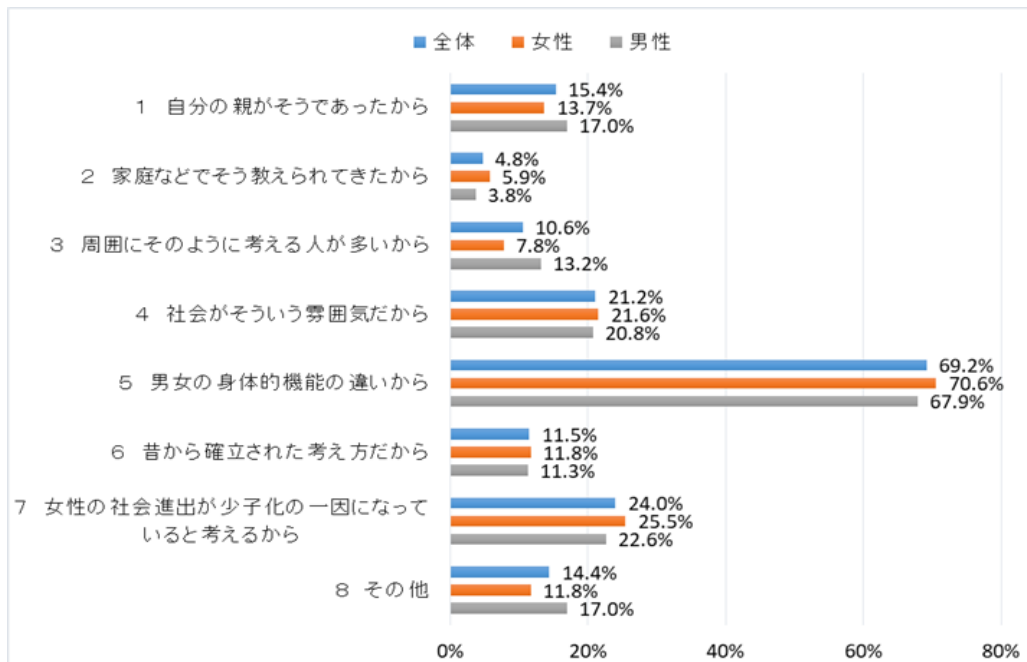
全体では、「同感する」「ある程度同感する」を合わせた「賛成派」が27.8%で、「同感しない」「あまり同感しない」を合わせた「反対派」が72.2%となっており、性別役割分担意識を容認しない人の割合が多くなっている。



問2-2 (問2で「1. 同感する」、「2. ある程度同感する」と答えた人にお尋ねします。) あなたが、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、そのように考える理由は何ですか。(〇は2つまで)

【回答】

全体では、「男女の身体的機能の違い」を挙げる人(69.2%)の割合が最も多く、次いで、「女性の社会進出が少子化の一因になっていると考えるから」(24.0%)となっている。



(回答者数：全体 104 人、女性 51 人、男性 53 人)

問3 あなたは、DV（ドメスティック・バイオレンス）について相談できる窓口があることを知っていますか。

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは

配偶者（事実婚を含む）や交際相手からの暴力をいいます。

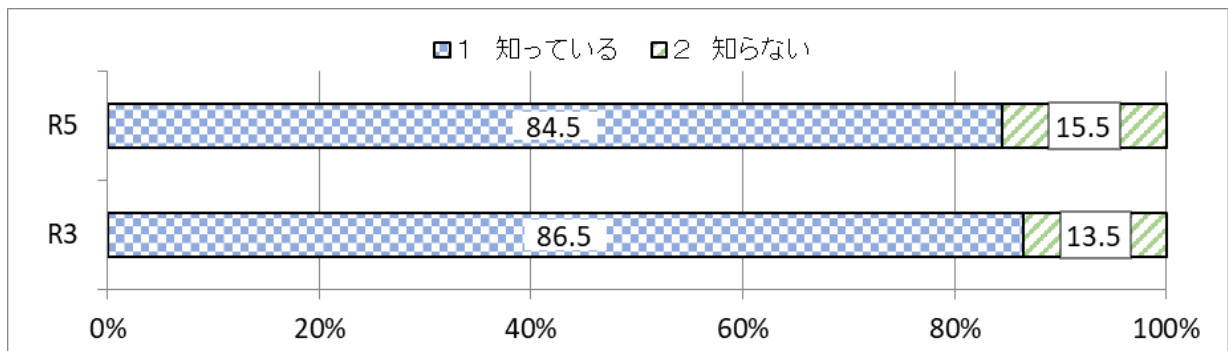
【DVの事例】

身体的暴力	殴る、蹴る、物を投げつける など
精神的暴力	大声でどなる、無視する、外出・電話を制限する など
性的暴力	性行為の強要、避妊に協力しない など
経済的暴力	借金をさせる、生活費を渡さない など
子どもを利用した暴力	子どもに悪口を吹き込む など

※県内12ヶ所の配偶者暴力相談支援センター、男性DV被害者のための相談ホットライン、LGBTの方のDV被害者相談ホットラインで、相談を受け付けています。

【回答内容】

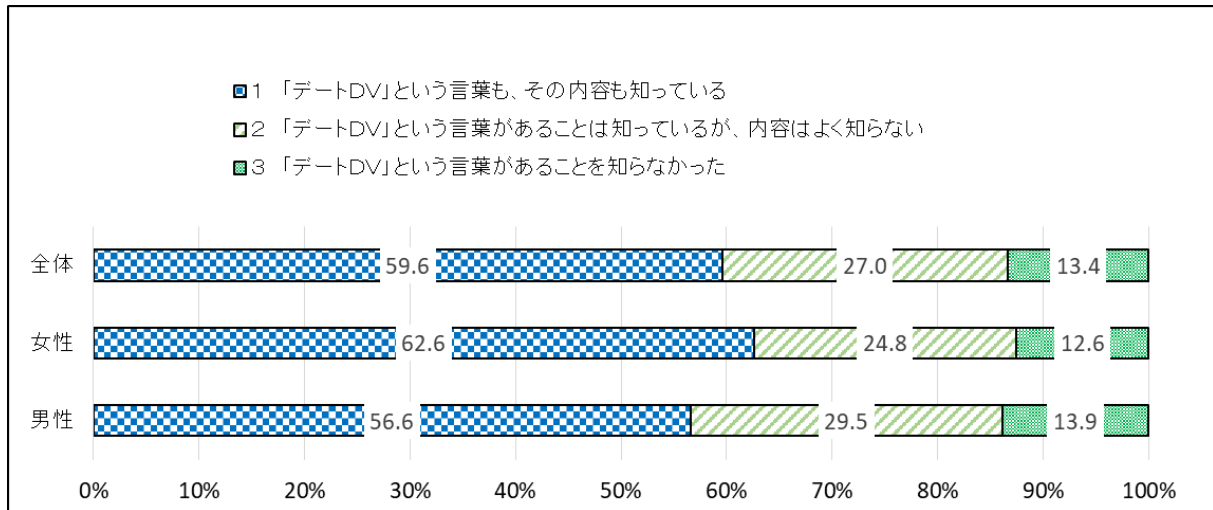
DV（ドメスティック・バイオレンス）について相談できる窓口があることを知っているという回答した人の割合は、84.5%と、前回調査時からやや減少したものの、8割を超える認知度を保っている。



問4 あなたは、「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について、知っていますか。

【回答内容】

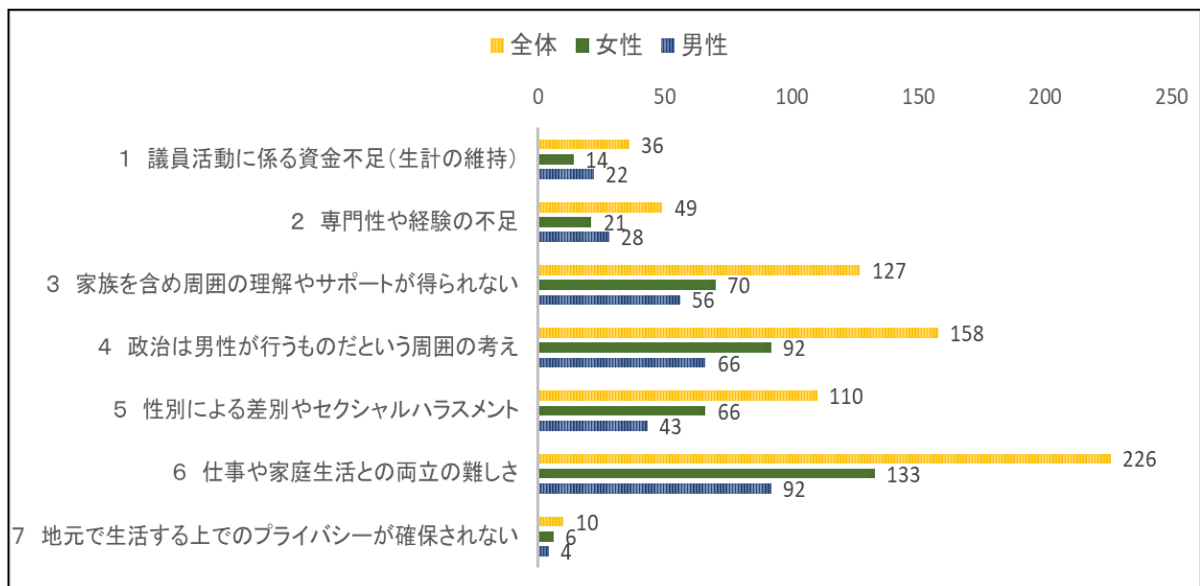
全体では、「言葉も、その内容も知っている」が59.6%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が27.0%、「言葉があることを知らなかった」が13.4%となっている。



問5 政治分野における男女共同参画の推進に向けて、女性が政治に参画する上で、何が課題となっていると思いますか。（〇は2つまで）

【回答内容】

男性、女性ともに「仕事や家庭生活との両立の難しさ」の回答が最も多く、次いで「政治は男性が行うものだという周囲の考え」が多くなっている。

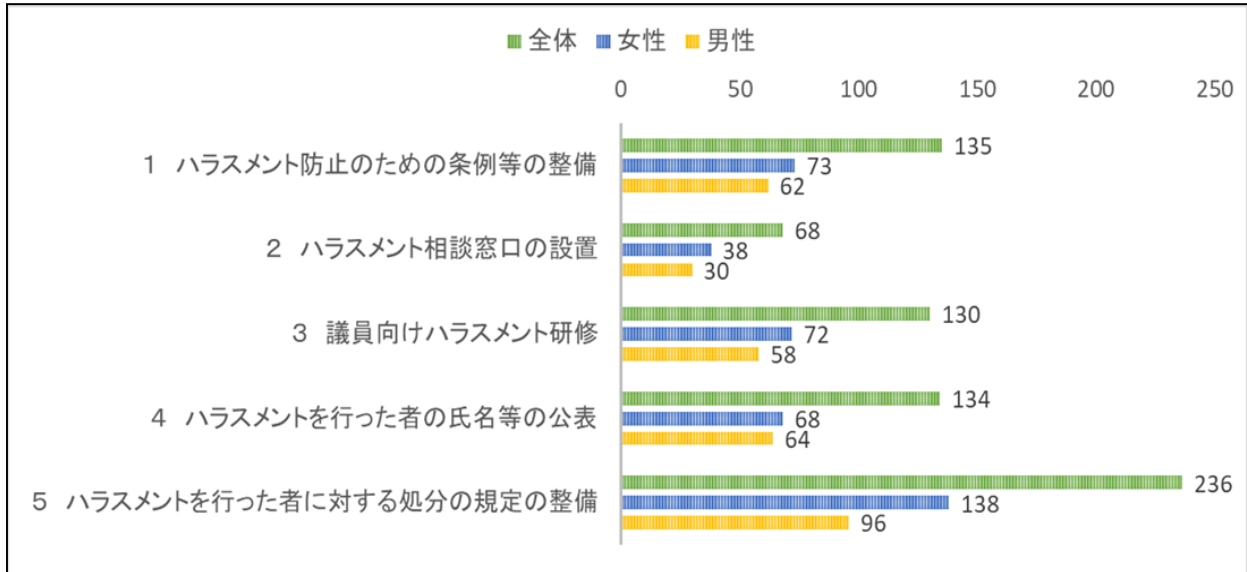


(回答者数：全体 374 人、女性 206 人、男性 166 人、その他 2 人)

問6 政治分野におけるハラスメントを根絶し、女性をはじめ誰もが政治に参画しやすい環境を整えるためには、どのような取り組みが有効だと思いますか。(〇は2つまで)

【回答内容】

男性、女性ともに「ハラスメントを行った者に対する処分の規定の整備」が最も多く、男性と比較してより多くの女性が「ハラスメントを行った者に対する処分の規定の整備」を望んでいる。その他の項目について回答内容に大きな男女差は見られない。



(回答者数：全体 374 人、女性 206 人、男性 166 人、その他 2 人)

問7 男女共同参画の推進について、これまでの設問以外に意見はありますか。

【回答内容】（意見抜粋）

- ・「ジェンダー平等・男女共同参画」という言葉自体がわかりにくさや、堅苦しさを感ずます。学問的、専門的な表現で浸透しない原因もそこにあるのでは無いかと思ひます。
- ・近年、かなりジェンダー平等ということについて、進んできたように思えるが、まだまだ、根強い慣習やしきたり、社会通念のような感じは払拭できない部分があると感じています。
- ・大人への取り組みと同時に、子供・若い世代への周知も非常に大事だと考へます。小中学の授業に取り入れたり、授業参観や学校行事などを通して、親や地域住民へも理解を深めていけば良いのではと考へます。
- ・地域社会において、意思決定の場面では、まだまだ男性の意見、特に高齢男性の発言が強い現実があります。地道に、各世代の女性たちが地域社会での役割をこなし経験を積み上げる時間が必要だと思ひます。また、学び直しの機会も欲しいです。
- ・行政から企業へ産休育休から復帰しやすい制度をしくように働きかけるなど、産後も安心して働ける世の中を作っていたきたいです。そうすれば、男性も女性問わず様々な年代の方が生き生きと輝く福岡県になっていくと考へます。
- ・女性の管理職や政治家の数が少なく、子育てや家庭と両立できるイメージが湧かないのは大きいのではないかと感ずます。制度が変わってきていることは、良いと思ひますが、もっと女性の管理職や政治家などが増えると、働き方の多様性も出てイメージしやすくなると思ひます。
- ・女性議員の比率が世界でワーストというのが現状を表している。まずは女性割合目標を本気で達成させてほしい。その為にどんな政策が必要なのか若い世代の意見を広く聞いてあげてほしいです。